

第1回市民自治推進委員会議事概要

1 日 時 令和8年5月25日（月） 10:00～11:30

2 会 場 鳥取市役所駅本庁舎 3階 第1会議室

3 出席者

(1) 委 員 安達委員、佐藤委員、清水委員、城野委員、鈴木委員、椿委員
西原委員（50音順）7名出席

(2) 鳥取市 協働推進課：藤田課長、酒本課長補佐、森本主任

4 議 事

(1) 報告事項

① 活動計画について

(事務局)

【資料1説明】

② 協働のまちづくりガイドラインの進捗について

(事務局)

【資料2説明】

(委員長)

「【柱1】地域コミュニティ活動の支援」①のまちづくり協議会に対する一括交付金制度は、制度の見直しで非常に良くなった。私の地区では、導入に際し役員の理解を得るのに数年かかったが、一括交付金は地域で裁量がきくので使い勝手が良い。

また、今年度良いと感じたのは、地域コミュニティ活動支援事業の見直しである。食糧費や景品などの補助対象経費が緩和された。現状に目を向けて見直しをしてみたらうと地区としてはありがたいと思う。

「【柱5】持続的な協働のまちづくりの促進」①にある「持続可能な町内会づくり応援チーム」について、町内会加入率の低下は喫緊の課題である。町内会加入のメリットを少しでも掘り起こし、市民に理解してもらって何とか食い止めていかなければいけない。それぞれの町内会はもとより、鳥取市自治連合会でも一番の課題として取り組んでいるし、協働のまちづくりの取組として行政も応援していく形が良い。ただ、行政サービスの公平性を考えると、町内会加入の有無で市が対応を変え

ることは難しい。その他ご意見はあるか。

(委員)

資料4ページの町内会の負担軽減は、具体的にどのようなことに取り組んでいるか。また、11ページには地区公民館の利活用について掲載されている。地区によって町内会数に差があるが職員は一律の人数が配置されており、業務負担に差が生じている。私の地区は人口が多く、地区公民館の職員は非常に忙しい思いをしている。地区公民館の活動費の中から費用を捻出し、臨時の手伝いなども頼んだりしている。学校再編は行われているようだが、地区公民館の再編などの考えはあるか。

(事務局)

町内会の負担軽減の取組について、昨年度発足した持続可能な町内会づくり応援チームにおいて、回覧物の効率的な回覧方法や地区推薦委員の選出方法の見直しなど、各課で持ち帰り全庁的に検討している。

また、4ページの③の依頼事項の見直しで掲載している件数は、地区会長会で市がお願いや制度説明を行った件数だが、この件数も減らすことができないか検討している。必要な情報まで絞ることがないように注意しつつ、協働推進課が中心となってお願い事項等の精査を行っている状況である。

地区公民館の再編については、まずは地区公民館の役割やあり方について検討しなければ、再編は難しいと思っている。検討はしていかなければならない事項だとは考えているが、再編の具体的な動きは現時点ではない。

(委員)

検討を急いでもらわなければいけない。200世帯程度の地区も2,000世帯を超える地区も、地区公民館は同一の人数配置になっている。忙しい地区の職員も、サービスを低下させてはいけないという思いを持っている。検討すると言う間に、5年や10年はあっという間に過ぎてしまう。地域の意見も聴き、一歩進めなければなかなか前進しないと思う。

町内会の負担軽減については、地域の負担が大きい状況が続けば持続は難しい。行政は軸を持って考えてほしい。

(委員長)

地域での配布物は、月に3～4回作業が発生しているだろうと思う。中には必要な情報かと疑問に思うものもあるが、町内会に加入しているからこそ受け取れる情報でもあり、町内会加入のメリットの一つとも言える。しかし、地区公民館に回覧物を取りに行くのが手間である。これまで情報が受け取れなかった人にも受け取ってもらえるよう、電子回覧板の導入を検討している地域もある。私自身も、必要な

情報をいつでも受け取れる仕組みの構築を考えており、私の地区では誰でも参加できる公式LINEを導入した。回覧や報告事項等を毎月1日と15日に配信している。また、地区で発生した空き巣被害の注意喚起なども行った。タイムリーに共有するため、3本のLINEを活用している。1つめは住民向けで、会議資料、地域情報、行事などを掲載しており利用者は閲覧のみ可能である。2つめは町内会長と各班長向けで、イベントの中止連絡、空き巣被害の共有、避難所の開設告知など、緊急時に最低限の共有を行うものである。3つめは町内会長のグループLINEで、双方向で意見交換を行うことができるものである。良い部分もあるし、改善していく部分もある。

(委員)

委員長の地区は情報配信力が充実していると感じた。私の地域では、回覧は月に一度開催される班長会の時のみなので、回覧負担だけを見ても、大きな地区と小さな地区の違いなのかと考えながら聴いていた。

8ページの⑤災害ボランティアの項目に、令和7年度に情報伝達訓練の実施と運営者研修を大正地区で実施したとあるが、具体的な研修の内容を伺う。

(事務局)

まず情報伝達訓練について、定期的に行っている災害ボランティアセンター連絡会において、鳥取市役所が毎年実施している総合防災訓練の中で災害ボランティアセンター開設に向けた練習ができるとよいのではないかとご提案をいただいた。これを受け、危機管理課と連携して実施したもの。初回でもあるので、スモールスタートで、災害ボランティアセンターを開設するまでの電話連絡の訓練を実施した。

次に災害ボランティアセンターの運営者研修についてである。災害ボランティアセンターは、災害発生時に鳥取市災害対策本部と鳥取市社会福祉協議会が調整しながら開設を決定し、鳥取市社会福祉協議会で立ち上げていただくことになっている。このことから、令和7年度の運営者研修も鳥取市社会福祉協議会が中心になって実施され、鳥取市からも協力者として数人参加させていただいた。

(委員)

運営者研修は、水害被害が大きい地区として大正地区に手を挙げていただき、鳥取市社会福祉協議会が実施したものである。令和5年に発生した台風第7号に伴う佐治町での経験を教訓として話をさせていただいたり、全国の被害状況について報告したほか、各地を飛び回っている鳥取県社会福祉協議会の防災士にも入っていただき話を伺った。併せて、大正地区の皆さんでグループワークを実施していただいた。大正地区の町内会加入率は大変低く、加入者と未加入者の双方がどのように情報をやり取りしていくかというところが大きな課題だった。引き続き、千代川に沿

った地域や大正地区で訓練を実施していきたい。また、鳥取市社会福祉協議会では、今年度から2か所の地区公民館に地区コーディネーターを配置し、防災を含めた地域のネットワークづくりを進めている。

(委員長)

自然災害でいうと青谷や佐治などは大きな被害の経験があるが、鳥取地域は大きな被害に見舞われたことがないので、バイアスが働いてしまい、ほとんどの人が避難してくれない。私自身何年も防災に関わり、各所で自然災害のリスクを説いてきたが、なかなか自分事として捉えてもらえない。情報の出し方もいろいろ工夫するが、しっかり聞いていただけないのが課題となっている。実際に災害が起きたら大変なことになるだろうと危惧している。この辺りは水没すると1日、2日は水が引かない。水が引かなければ物資も運べない。聞くところによると、鳥取市にはボートが一艘しかなく、運べないだろう。

災害対応のシステムや仕組みが実際の場面で機能しないことが一番の課題となる。昨年能登のボランティアセンターを訪問し話を聞いたが、全国から大量に届く物資の置き場所もなく配布もできず大変だったそうである。そのあたりの仕組みもしっかり作っておく必要があると感じた。

(2) 協議事項

① 市民まちづくり提案事業（自主事業部門）審査会委員の選出について

(事務局)

【資料3説明】

(委員長)

自主事業部門について、審査会委員を1名選出したいが、いかがか。

《協議の結果、安達委員を推薦見込み、予定が合わなければ鈴木委員長を推薦》

② 参画と協働のまちづくりフォーラムについて

(事務局)

【資料4説明】

(委員長)

非常にうまく企画されていると思うが、ご意見はいかがか。

(委員)

アンケート結果の報告は非常に良いと思った。分析結果や仮説も示すことができれば、立場の違いによる認識の違いも埋めていくことに繋がり、興味深い。

(委員長)

これまでは高い年齢層の方の参加が多かったが、今回は大学生などの若者も巻き込んでまちづくりに関わる話し合いをしていく案になっている。大学生を巻き込む良い方法はあるか。

(委員)

学生は、巻き込みやすいテーマとそうでないテーマがあると思う。巻き込みやすいテーマであれば、黙っていても参加者はあると思うが、テーマによってはいくら誘っても参加は見込めないかもしれない。

(委員長)

初めから実行委員会に大学生の中のリーダー的な方に入っていただくのも一つの案だと思う。

資料3 ページの図は、地区公民館の位置づけが分かりやすく表現されている。地区公民館は施設ではあるが、そこに従事している館長や主事は地域のコーディネーター役であり、地区公民館はキーステーションの役割を果たしている。住民の一番身近にある行政の施設として、どう関わっているのか。あまり前に出すぎても後ろに引きすぎてもいけない。地区公民館も規模や事業の大小によって業務量も様々だが、それぞれが大事な役割を果たしている。課題もあるが、参加者がポジティブな目線で協働のまちづくりのヒントになるものを持ち帰っていただけるようなフォーラムになればと考える。

(委員)

ポジティブな目線ということで、町内会費を払っているだけで活動に参加していない人も多い中で、そういった人たちの目にも届くようなフォーラムになるとよい。実際の活動を知ること興味を持っていただけるし、役員負担への取組を知ること自分も何かできることをやろうという前向きな意識も持ってもらえると思う。あとは、どう集客していくかである。

(委員長)

地域活動を負担感なく、できる時にできる範囲で参画し、地域を良くしたいというような気持ちを皆が持っているとは思いますが、頭ごなしに進めていくと負担感ばかり感じてしまう。地域に関心が全く無いわけでもなく、積極的に情報を取りにいかない人も多く、私の住む地区では地域への関心の薄さが選挙の投票率の低さにも如実に表れている。

(委員)

学生のフォーラムへの参加について、鳥取大学に地域づくりを学びたいという学生のグループがあり私の地区で関わりを持っている。フォーラムの実行委員会に参画してもらえないか。

(委員)

市民自治推進委員の中にも学生と幅広く関わっておられる方がいる。そのあたりの学生に参加してもらえれば横のつながりもあって良いかもしれない。

(事務局)

現在のところは、市立地区公民館で実施している「わかもののまちづくり事業」で有償ボランティアに登録してくださっている学生に声をかけてみてはどうかと考えている。また、平成28年のフォーラムでは、委員に関わりのある鳥取大学の学生にパネリストとして参加いただいたこともある。委員の中で学生の伝手があればご紹介いただくのもよいかもしれない。

(委員)

学生が関わるとなると、10月～11月は学祭があるので避けた方がよい。

(事務局)

前回の委員会でも同様のご意見があり、事務局としては、11月後半ではどうかと考えている。

(委員長)

雪の降る時期は避けたいので、11月下旬から12月上旬の開催が目安か。11月22日は市議会議員選挙のため、それ以降になる。

(事務局)

例年、フォーラムは土曜日か日曜日で開催している。

(委員長)

11月下旬から12月上旬の土日で開催する方針とする。
会場の規模はどうか。内容や参加者数の想定にもよると思うが。

(事務局)

前回の市民自治推進委員会において、他の自治体のフォーラムを参考に事業者にもたくさん参加いただいて名刺交換の時間を設けてはどうかとの案をいただいた。事務局で後日検討してみたが、事業者の活動希望の地区と参加者の地区がマッチングしないと名刺交換も意味を為さないため、今回名刺交換は見送ろうと考えている。

事例発表やパネルディスカッションでの開催であれば、150～200人規模の会場でよいと考えるがいかがか。

(委員)
異議なし

(委員長)
現状の案では内容も広いため、実行委員会の中である程度絞っていけたらと思う。本日決めておかないといけないのは実行委員長と初回の実行委員会の日付だが、いかがか。

《協議の結果、フォーラム実行委員長は鈴木委員長に決定》

(委員長)
第1回目の実行委員会も、早めの開催として大学生や地域に関わっている事業者の声も最初から聞いた方がよいのではないか。

(事務局)
事務局案ではあるが、防災面で地区行事に関わってくださっている事業者や、市内の子ども向けのイベントなどに自発的に手を挙げて関わってくださっている事業者などにお声がけしてはどうかと考えている。事例発表では、事前にポイントを統一して発表者側に提示しておけば、先方も話がまとまりやすくなるのではないかと考えている。

(委員長)
良い案だと思う。フォーラムの開催が11月末頃であることを考えると、第1回の実行委員会は6月中に開催したい。事務局には段取りをお願いする。

(3) その他

(委員長)
その他、全体を通じて何かご意見・質問等はあるか。

(委員)
特になし。

(事務局)
今後の日程等については、改めて調整させていただく。